

航空保安大学校移転先及び完成予想図



設立目的

航空保安大学校は、航空交通の安全を支えるスペシャリストである航空管制官、航空管制運航情報官及び航空管制技術官等を専門的に養成・訓練することを目的に設置された国内で唯一の研修機関である。当校は羽田空港にある本校と仙台空港にある岩沼研修センターがある。本校においては、高卒者を対象とした、2年間で、現場において基本的な業務が遂行できるレベルとなるまでの「基礎的研修」を行うコース(本科)の他、大卒者を対象とした航空管制官を養成するための6ヶ月のコース(専修科)が設けられている。岩沼研修センターでは既に現場に出た職員の技術・技能向上のための専門的な研修を行っている。

教職員 55名、本科学生 131名、専修科 36名(H19.8.1現在)

- 1959年(昭和34年)11月 東京国際空港内に「航空職員訓練所」を開設
- 1969年(昭和44年) 4月 本科3コースの研修を現校舎において開始
- 1971年(昭和46年) 5月 「航空保安大学校」となる
- 1974年(昭和49年) 4月 「航空保安大学校岩沼分校」を仙台空港内に設置
- 1980年(昭和55年) 4月 初めて女子が入学
- 2002年(平成14年) 4月 岩沼分校を「岩沼研修センター」に名称変更
- 2005年(平成17年) 8月 りんくうタウンへの移転を公表
- 2006年(平成18年) 3月 大成グループとPFIによる事業契約締結(契約金額134億円、事業内容:学校の建設及び運営・維持管理業務)
- 11月 建設工事着工(校舎、寮、体育館、グラウンド及び訓練機器等)
- 2008年(平成20年) 4月 りんくうタウンでの移転開校